



# 第三六回定期九州本部大会開催!

## 委員長挨拶

九月三〇日十時より福岡県中小企業振興センターにおいて第三六回九州本部定期大会を開催しました。コロナ禍の大会とあって、来賓は、本部委員長と国労議員団のみの参加で行い、マスク着用とソーシャルディスタンスをしっかりと取りながらの開催となりました。また大会前段に労働講座を開催しました。



千々岩委員長

今大会は、新型コロナウイルス感染症の影響で延期を余儀なくされ、また国労全国大会を含め諸会議についても書面開催や中止・縮小しての開催となり組合員の皆様には大変ご迷惑をおかけしている。しかし、コロナ感染症は未だに収束していないし、この冬にかけてインフルエンザと共に拡大すると予想されている。国労九州本部としても最大限注視をしていかなければならないと考えている。3点を訴えて挨拶としたい。

### 一、国労の組織強化・拡大

この間、組織拡大のために最大限の取り組みを要請してきたが、コロナ禍の中で取り組みとなつて、十分な取り組みが出ていないのではと危惧をしている。集団での取り組みは厳しいかもしれないが、各地区本部で創意工夫した取り組みをおこない、少数や個人対応も含めた様々な対応をお願いしたい。逆に今だからこそ出来る運動を強

めて欲しい。組合員の頑張り、踏ん張りには期待したい。今後の取り組みについては、学習会や小規模の交流会・レク等の開催を計画したい。九州本部としても進化した若い力」の発行やホームページを活用した話題づくりにも力を入れていく。組織強化・拡大の取り組みは必要不可欠であり、国労運動の継承発展に欠かすことのできない課題である。九州本部も先頭になって奮闘したい。

### 二、合理化反対・安全安定輸送の取り組み

コロナ感染拡大により、JR九州を取り巻く環境は大きく変化している。運輸収入が激減し、その後の回復も全く見通せない状況である。豪災害で被災した日田彦山線・添田夜明間は沿線自治体の苦渋の選択によりBRT方式を受け入れることになった。また、令和2年7月豪雨」では肥薩線・久大本線を中心とし、17線区全体で730箇所が被災が発生した。今後自然災害への対応が最重

害を理由に鉄道からの撤退は許されない。九州本部としても地域住民の足を守り地方ローカル線の存続に向け国交省要請等へ法改正や鉄道軌道整備法の活用を訴えていく。

国労は、安全・安定輸送を最優先して、適正な要員の配置と安全に働ける、職場の労働条件を守るために全力を挙げなくてはならない。そして、期末手当や来季春闘に向けて、コロナ禍といえども取り組みを強化し、コロナ禍で厳しい仕事・生活を強いられた組合員の思いを胸に取り組んでいく。

三、平和と民主主義を守る闘い  
安倍総理が健康上の理由で突然辞任した。しかしこの間安倍政権の内政、外交の失政、森友・加計学園問題」桜を見る会」などの政治の私物化、コロナ対応の不備などによって辞任追い込まれたのが正当な理由である。その後、菅総理が誕生したが、安倍政権をそのまま引き継ぐとしている菅政権には未来を託すことは出来ない。来るべき総選挙では野党は一致団結して政権交代を果たさなければなら

ない。最後に、2021春闘勝利、労働条件改善、憲法改悪阻止、喫緊の課題である組織強化・拡大」を第一に取り組みむことを約束し九州本部を代表しての挨拶とする。